

特集 ストラクチャードファイナンスの取組み

法人コンサルティング業務における柱の一つとして、注力しているのがストラクチャードファイナンスの取組みです。2002年に開始したPFI事業向けプロジェクトファイナンスは、地方銀行でトップクラスの実績となっています。

担当役員からのメッセージ

時代の要請に応えるサービスで 地域企業、地域経済の 発展に貢献します

取締役常務執行役員
荒木田 豊



PFI事業が地方銀行トップクラスへ成長

法人コンサルティング部には、コンサルティング課、ストラクチャードファイナンス課、事業承継・M&A支援課の3課があり、主に創業・新事業支援、ビジネスマッチング支援、多彩な資金調達提案、M&A・事業承継支援などのコンサルティングサービスを提供しています。2023年度の法人ソリューション手数料は2,979百万円で、その約3割がストラクチャードファイナンス関連となっています。

ストラクチャードファイナンスのなかで、着実に伸びているのがPFI事業向けプロジェクトファイナンスです。PFI法が1999年に制定されて間もない2002年に、他の地方銀行に先駆けてPFI事業への取組みを開始し、三重県の「桑名市図書館等複合公共施設特定事業」に対して、当行は参加金融機関としてPFI事業向けプロジェクトファイナンスに参画しました。

その後、少しずつ実績を積み上げてノウハウを蓄積し、案件組成からモニタリングに至る取組みへの信頼を獲得していきました。近年は、名古屋第4地方合同庁舎や山口県周南市のスポーツ総合施設など、全国各地で多岐にわたる分野のPFI事業に携わっています。2024年3月末におけるPFI融資累計額は985億円、累計参画件数は66件、うちアレンジャー案件は37件となり、地方銀行でトップクラスとなっています。PFI事業向けプロジェクトファイナンスは、地域

における課題解決にも寄与する活動であり、今後も積極的に推進していきます。

サステナブルファイナンスの高度化 全国初の映像形式の評価書を発案

当行では2021年からポジティブ・インパクト・ファイナンス(PIF)の取組みを行っています。PIFはお客さまの企業活動が経済・社会・環境におよぼすインパクトを包括的に評価し、ポジティブな影響の拡大とネガティブな影響の緩和に向けた取組みを支援する融資です。その特徴は、お客さまと一緒にSDGs達成への貢献度合いをKPI(重要目標達成指標)として設定し、当行が定期的にモニタリングを行い、お客さまの企業価値向上を支援するものです。

PIFの評価書は通常書面形式で作成され、当行HPなどで開示しますが、お客さまからの要望を受け、経営トップのメッセージや事業内容を動画で紹介する「映像形式の評価書」を用いたPIFを全国で初めて当行で発案しました。本評価書の開示はサステナブル経営に取り組む企業のイメージアップにもつながっており、PR効果を追求した映像形式の評価書はお客さまにも好評です。また、当行のほかのお客さまや他行からも多くの反響をいただきました。今後も、ソリューションの一つとしてより多くのお客さまに知っていただき、持続可能な社会の実現に貢献していきたいと考えています。

全国初！映像形式の評価書を発行する ポジティブ・インパクト・ファイナンスの取組み

当行では、2023年12月、全国で初めてとなる映像形式の「PIF評価書」を発行するPIFの取組みを行いました。そこで、実際に本PIFにかかる融資契約を締結いたしました河田フェザー株式会社の河田社長に、融資契約に至った経緯やその効果などについて、お話を伺いました。

お客さまインタビュー

河田フェザー株式会社



河田フェザー株式会社
代表取締役
河田 敏勝 氏

会社概要

資本金 4,320万円
(本社) 愛知県名古屋市中村区草薙町一丁目31番地
(明和工場) 三重県多気郡明和町大字山大淀3255番地
事業内容 羽毛原料の仕入・精製・回復加工・販売、
使用済み羽毛製品の回収、羽毛ふとんの製造



YouTube 百五銀行公式チャンネル
ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書 ～河田フェザー株式会社～



■ 動機と原動力 環境問題は企業としての責任

当社は羽毛の専門メーカーであり、羽毛の品質を極めることこそ一番大切な使命だと考えています。羽毛は食肉用として飼育された水鳥からしか回収されません。つまり、水鳥の生育状況が羽毛の品質のよしあしに直結しますが、食肉としては世界で安価な肉の需要が高まり、結果、飼育日数が短くなり良質な羽毛が減少しています。また、90年代頃から多雨や酷暑など自然環境の変化で水鳥の数が減少しています。いずれ、羽毛がとれなくなってしまうかもしれない…仕事を通して肌で感じた深刻になりつつあるさまざまな問題を目の当たりにして、リサイクルをやらないといけなそうと考えました。当時リサイクルは日本人に受け入れられませんが、欧米に浸透している企業市民^{*1}やノブレス・オブリージュ^{*2}の考え方に後押しされて、企業として自分の周りから変えていく、環境に力を使っていこうと考えました。

■ めざすべきもの 当社しかできないことは、“羽毛のリサーキュレーション” 100年以上羽毛を循環していける社会をめざしたい

工場の新設を考え、羽毛の傷みが回復できる水を求めて日本中探していたところ、超軟水で強い還元力を持つ豊富な地下水と、年中をととして高温多湿になりにくい、リサイクルに最適な環境だったのが三重県多気郡明和町でした。企業として環境問題を考えた時、当社しかできないことは、羽毛のリサイクル、リサーキュレーションです。羽毛は100年以上使える丈夫なもので、当社の技術力と恵まれた環境で羽毛を循環していける社会をめざしたいです。



※1 企業市民 企業も市民と同様に社会を構成する一要素であり、応分の負担が求められるという考え方
※2 ノブレス・オブリージュ (noblesse oblige) 「noblesse (貴族)」と「obliger (義務を負わせる)」を合成した言葉。財力、権力、社会的地位の保持には責任がともなうことをさす。身分の高い者はそれに応じて果たさねばならぬ社会的責任と義務があるという、欧米社会に浸透する基本的な道徳観